

平成29年度 佐賀市立城南中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂をもち、主体的に学ぶ人」を目指して～	①学習指導方法全般の改善 ②コミュニティースクールの活性化 ③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①学習指導方法全般の改善

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・生徒の基礎学力定着	・12月の県学習状況調査において、正答率50%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。 ・「学び合い」の考え方をもち、主体的に学ぶ学習集団の育成に向けた指導方法の工夫・改善を行う。	・生徒の実態分析をもとに校内研修会や教科部会を実施し、達成に向けて教職員の意識の共有化と実践を図る。 ・授業課題と授業終末の評価を連動させ、次期学習指導要領実践研究につなげる。
	○生徒指導の充実	・城南魂を身に付けた生徒の育成	・学校評価アンケートにおいて、「相手や場に応じた行動ができている」と回答する生徒の割合を85%以上とする。	・城南魂とは何かについて生徒・教職員に共通理解を図り、全教育活動を通して時宜を得た適切な全体指導や個別指導を行う。 ・問題対応だけでなく、開発的生徒指導の観点に立った指導を行う。
	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・生徒の学習意欲向上、理解の深まりにつながるICT利活用	・電子黒板を効果的に活用した授業ができる教職員の割合を100%とする。 ・校内研修等において、ICT機器を活用した授業実践に関する研修を行う。	・全教科・全領域で電子黒板を活用した授業実践を行い、生徒の主体的な学びにつなげる。 ・1人1公開の授業において、ICT機器の効果的な活用を推進する。

②コミュニティースクールの活性化

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒の育成	・道徳教育推進教師を中心とした道徳の授業の活性化を図る。 ・JRC活動やボランティア活動の活性化を図り、活動への参加生徒を増やす。 ・人権・同和教育を推進する。	・各学級の道徳の授業を保護者や地域に公開するとともに、道徳の時間以外の活動でも生徒の心を育てる支援を行う。 ・募金活動やペットボトルキャップ収集などJRC活動を活性化し、ボランティア意識の高揚を図る。
学校運営	○情報発信	・HPの更新など広報の充実	・学校行事や生徒の活動の様子、地域との連携の状況を積極的に情報発信し、学校に対する関心を高める。	・HPや学校・学年たよりで積極的に情報発信する。 ・公民館の自治会ボックスを活用してもらい、校区全体に知らせる。 ・地域ボランティアに参加させ、生徒の活動の様子を見てもらう。
	○開かれた学校づくり	・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	・学校に期待されている面をしっかりと踏まえ、地域に誇れる特色ある活動を展開する。 ・フリー参観デーやPTA総会、その他学校行事への保護者の参加率を60%以上に上げる。	・CS協議内容を十分に踏まえるとともに、小学校と学習・生活面の連携充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・地域の方と生徒がふれあう場の設定を工夫し、地域の声を生徒に聞かせる。

③教職員の資質・能力の向上(教育は人なり)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○チーム学校としての機能	・学校組織として向かうベクトルの意識	・学校教育目標達成に向けて、教職員が一枚岩になる。 ・信用失墜行為をゼロを目指す。	・学校課題を共通理解し、解決に向けて共通実践するとともに、専門性をもつ外部人材を有効活用する。 ・服務規律の保持について、具体例を提示して意識高揚を図る。
教育活動	●いじめ問題への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・未然防止のための居場所づくり、絆づくりを行い、いじめゼロを目指す。 ・いじめを見逃さない体制づくりを行い、組織的な対応をする。 ・保護者や関係機関との連携を密にする。	・情報をいち早くキャッチするために定期的な生活アンケートを実施する。 ・生徒指導体制を強化し、情報交換を定期的(週1)に行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材と連携を図り、早期対応に努める。
	○不登校生徒への対応	・未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	・教育相談担当を中心とした組織的な教育相談体制を確立する。 ・不登校生徒の早期発見・早期対応に努め、学級復帰を目指す。 ・保護者と連絡を密にし、信頼関係を深める。	・情報交換を密に行い、組織的な支援を行う。 ・定期的な教育相談アンケートを活用するとともに、ケース会議を実施して個別に支援を行う。 ・SC等、専門性をもつ外部人材を活用した職員研修を実施する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動の症例と推進 ・基本的な生活・食習慣の定着 ・学習・睡眠時間の適正化	・積極的に部活動に参加し、心身の健全な発達を目指す。 ・生徒一人一人が体調の自己管理ができる。 ・朝食欠食ゼロを目指す。	・部活動と学習の関連、体調管理について実態に応じた指導を行う。 ・生活アンケートの中で学習や生活等の調査を行い、実態に応じた指導を行う。 ・保健だよりなどで健康管理面の啓発を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目